

卒業研究における各研究室の中間発表等の実施状況調査 まとめ

過去の実績にもとづいているので、新しい年度での実施にあたっては、変更の可能性に留意すること

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
伊代田研		○		●		☆			★	★	
穴見研						○			★		
紺野研			○		☆				★		
並河研	○	○	○	○		☆	★	★			
ヘンリー研		○	●			☆				★	
稲積研	○●				☆				★		
大山研			○	●		☆			★		
宮本研		○	●			☆			★		
勝木研		○				☆			★		
平林研			○	●☆					★		
岩倉研			○			●☆			★		
楽研			○			●☆			★		
中川研				○		●☆			★		
岡田研		○	●	☆					★		
川口研		○	●	☆					★		
長原研			○●	☆					★		
牧下研		○	●	☆				★			
谷田川研		○	●	●☆				★			

○ 卒論テーマ決定

☆ 中間発表1 (背景・目的等)

● 研究計画

★ 中間発表2 (成果報告)

【実施・運用】

(15) 本学科の他の教員の助言：学生は、指導教員の助言に基づき、もしくは自らの判断で、必要に応じ本学科の他の教員の助言を受けることができる。

(16) 卒業研究従事時間の記入・提出：学生個々に従事時間記入表があり、学生は自ら記入し、1ヶ月単位で指導教員に提出すること。卒業研究従事時間表は研究室単位で保管し、指導教員が前期終了時点および卒業研究発表直前に提出すること。

(17) 1ヶ月ごとの自己点検：卒業研究従事時間表内には、自己点検記入欄を設けており、学生自らが1ヶ月を振り返って進捗状況と今後の改善法を記入しなければならない。

【卒業研究の継続・停止】

(21) 卒業研究の後期継続の許可：後期に卒業研究が十分可能と指導教員が判断した学生にのみ、9月に卒業研究継続を許可する。この際、卒業研究従事時間表を参考とし、後期継続が不可能と判断される学生の聴取を行うものとする。判定は学科会議による。なお、許可に伴い警告を出す場合がある。

(22) 後期における卒業研究停止勧告：卒業研究の後期継続が認められたものの、その後卒業研究への取り組みが不十分と指導教員が判断し、学科会議により判定した場合、11月もしくは1月に卒業研究の停止勧告をする。この際、卒業研究従事時間表を参考とし、後期継続が不可能と判断される学生の聴取を行うものとする。判定は学科会議による。なお、許可に伴い警告を出す場合がある。

(23) 中間発表未実施に伴う卒業研究停止勧告：研究室で計画されている中間発表を正当な理由なくして実施できなかつたり、意図的に実施しなかつた場合、12月もしくは1月に卒業研究の停止勧告をする。この際、卒業研究従事時間表を参考とし、後期継続が不可能と判断される学生の聴取を行うものとする。判定は学科会議による。なお、勧告しない場合でも警告を出すことがある。

【提出物・評価】

(26) 最終自己評価：卒業研究発表後直ちに、卒業研究に関する自己評価を提出すること。

卒業研究に関する研究室ごとの方針

	伊代田研	穴見研	紺野研	並河研	ヘンリー研
研究室ゼミ定例の基本的考え方	週一回研究室にて 前期：周辺調査、研究計画のプレゼン、後期：進捗状況報告	・週1回研究室にてゼミ ・前期：勉強した内容の発表が基本 ・後期：進捗状況報告 ・12月以降は個人的な打ち合わせが基本	週一回研究室にて 前期：地震防災の実例について学び、研究の意義、モチベーションをあげる 後期：研究テーマへの取り組みと進捗状況報告	半期で5回研究室で実施 卒業研究の実施内容を説明	Held once every two weeks; students should summarize and present their progress and next steps
研究室運営の基本的考え方	口頭での報告に加え、進捗にはスライドやExcelのデータを下に議論 ゼミ以外にも個別に意見交換あり	・ゼミは全員参加 ・週1回は基本的に学生と打ち合わせが可能なようにスケジュールをしている	研究を通して、地震防災の基礎知識を身につけ、その意義や知識を説明できる力を身につけてもらう	各学生に対し適宜卒業研究の進捗状況を確認する。	Through research and activities, students should develop critical thinking and social skills
卒研従事時間表の提出	毎月チェック（データは共有サーバーに保管）	毎月点検させ、9月と2月に集約して提出	毎月チェック（全員分の集計一覧表（紙ベース）を作成）	毎月点検	Submit at the end of every month
ゼミ資料・卒研本文の保管	個別に作業 報告時にはサーバーへ 終了時にはすべてのデータをサーバーへ提出を徹底	個別に作業 卒業論文本文および研究データなどはDVD・CDなどに保存し研究室にて保管	個別に作業。ネットワークハードディスクにゼミ資料、卒論を保存。	ゼミ資料、卒研本文は研究室で保管	Students prepare by themselves; all materials should be saved to lab harddisk before graduation
卒研テーマ準備	教員が4月までに卒業生の倍の数のテーマを準備	教員が準備することが多いが、学生個人が準備することもある	教員が6月ごろまでに卒業生数分のテーマを準備	教員が4月に卒業生分用意	Faculty introduces list of potential topics at end of April and shares relevant papers and reports
卒研テーマ決め	各人が行いたいテーマがあれば議論。 5月連休明けには決定	4～8月の間でほとんどが決定する。基本的に学生が取り組みたいテーマを教員が準備したテーマから選択することが多いが、学生個人との話し合いでそれ以外のテーマを選択する場合もある	2週に分けて教員がテーマの概要を説明し、その後、全員の話し合いで決める。最終決定は7月ごろ。	4月～5月に決定	Students review papers and reports and submit preferred topics; topic is fixed by end of May
研究計画立案（目的）	関連する卒論、周囲文献を最初教員から指示。ただし、あとは各自で探して20編以上の論文を読むことを目標	・関連する既往の研究およびそれを理解するための教科書などを勉強する。 ・教員が学生に打ち合わせ時に説明を行う。	関連する卒論および文献を教員から指示。現状の問題や意義について考えさせる。	卒研テーマに関連する論文を読み研究目的を理解する	Faculty and students hold discussions to review relevant issues and explore research objectives
研究計画立案（方法）	大学院生を交え、研究計画を入念に立案。特に実験の場合は周辺論文を参考に決定	教員との打ち合わせを通じて、学生個人に考えさせる	関連する研究についての理解をはかり、研究方法を議論する。	教員とともに目的に対応した研究方法を立案する	Faculty outlines general research plan and students consider research methods to achieve objectives
研究計画立案（期待される成果）	得られる結果はどのようなものかを推測させる。何度が議論を実施	得られる結果はどのようなものかを推測させる。何度が議論を実施	研究の流れを話し、期待される成果についてイメージを持たせる	教員とともに目的に対応した研究結果を得るための計画を立案する	Based on objectives and discussions with faculty, students should consider the target achievements
夏休み	8月はゼミは休会。休暇は申告制。	8月はゼミは休会。ただし、打ち合わせは適宜行う。	8月はゼミを休会。	研究室としての夏休みはなし	No vacation period
ゼミ合宿	8月末か9月に合宿を実施。現場見学と中間発表、懇親を深めるスポーツなどを開催	行わない	9月にゼミ旅行を実施	ゼミ合宿は実施しない	Held in August or September; includes site visits and social activities to strengthen connections
後期開始	特に指定しない	特に指定しない	9月後期授業開始前からゼミ再開	特に指定しない	Not relevant
研究実施中	都度都度、議論を重ねる。必要なものは院生が教員の許可を得て購入。基本的には業者から購入。	学生個々と随時打ち合わせ議論を重ねる。研究内容の近いグループで複数の学生と同時に打ち合わせを行うことも多い。	必要なものは教員の許可を得て購入。	研究の進行状況に応じ適宜教員と研究結果について議論する。	One-on-one discussions held every week to review results and decide next research tasks
中間発表1	9月に東大との研究会で中間発表を実施。ゼミ合宿にて目的を理解しているかを問う。	9月までに中間発表を行う。これまでの成果を確認し今後の取り組みについて明確にする。	8月の第一週ごろに実施。取り組み状況を全員で確認する。	9月までに研究結果を発表	Held in September; students should present their research background, objectives, plan, and progress
中間発表2	12月に研究室研究会、1月に東大との研究会等で中間発表を実施。	12月に中間発表を行う。これまでの成果を確認し今後の取り組みについて明確にする。	12月下旬に実施する。卒論の進捗状況と不足分について、再確認する。	11月後半に研究結果を発表	Held in January; students should present a summary of their major research achievements
卒研テーマ決定（1月中旬）	ふさわしいタイトルをつけさせるために数回議論	学生に自らの研究内容にあったタイトルを提案させ、議論して決定	適切なタイトルをつけさせるために複数回議論する	4月～5月に決定したテーマを確認	Finalize thesis title based on objectives and achievements
内容梗概（1月下旬）	執筆したものからごんごん提出させ、院生のチェックを受けた後、教員がチェック。数回のやり取りで完成に向かう。なお、すべては提出前にチェックすることをルールとする。	執筆したものからごんごん提出させ、教員がチェック。数回のやり取りで完成に向かう。	学科提出の1週間くらい前に提出締め切りを定め、提出順にチェックする。複数回のやり取りで完成に向かう。	学科締切2週間前に研究室締切を設け、教員の査読を行う。	Students should prepare easy-to-understand summary for non-specialists with input from faculty
本文執筆（1月下旬～2月上旬）	本文執筆も出来次第、教員に提出。間違った記述がないかをチェック。入試時期が重なるため、注意している。	本文もごんごんに執筆次第、教員がチェックして議論する。	提出順にチェックする。記述の間違いと研究内容の誤差などがないかを最終確認する。	学科締切2週間前に研究室締切を設け、教員の査読を行う。	Prepare draft thesis and submit to faculty for review; discuss and revise according to feedback
発表会資料準備（2月上旬）	本論提出から発表までの間に、数回多いときは十数回のチェックを院生・教員・研究員などで実施。内容、言い回し、難易度などを何度も調整。	本論提出から発表までの間に、発表原稿とPPTを作成し、数回多いときは十数回プレゼンのチェックを院生・教員により行う。	本論提出から発表までの間に、複数回チェックする。研究内容を短時間で伝えることができるPPTを心がける。	発表会数日前までに発表資料を作成する	Prepare presentation slides summarizing thesis; submit to faculty and discuss points for improvement
発表会前（2月中旬）	スライドをある程度作成したら、練習は何度も繰り返す。	発表練習を行い、全員でチェックする。	研究室内に準備したプロジェクターを使用し、何度も練習を繰り返す。	発表会数日前に発表練習を実施する	Revise and finalize slides based on feedback; practice individually and with lab to build confidence
発表会后（2月中旬）	基本にお慶々様会の実施。また次年度との引継ぎも考慮し、配属が決まった学生も交えての冬合宿を計画。加えて、関東支部大会での発表を促している。	本年度の反省と来年度に向けての修正について反省会を行う。相応のレベルの学生には関東支部大会、全国大会での発表を促している。また配属が決まった学生と交流および研究内容の引継ぎのため懇親会を実施。	打ち上げを実施。本学建築学科、建築工学科の附属関係の研究室と合同勉強会（卒論、修論）を実施、これには新4年生も参加。	研究成果に応じ学会投稿論文を作成する	Hold wrap-up celebration and welcome new members; submit final thesis; present at JSCE Kanto

過去の実績にもとづいているので、新しい年度での実施にあたっては、変更の可能性に留意すること

	稲積研	大山研	宮本研	勝木研	平林研
研究室ゼミ定例の基本的考え方	夏季休暇前は自身の卒研に関する基礎勉強、休暇明けは卒研の作業内容と成果の報告とする。	前期は週2回(研究テーマ議論1回、論文紹介1回) + 定期的な個別面談。後期は週1回(研究進捗確認)	年間を通して定期的に開催する。前期はこれらを進める研究のレビューと基礎勉強、後期は研究の進捗状況と方向性のチェック。	週1回研究室で研究テーマ毎に前期: 研究背景と目的の整理、研究計画の立案 後期: 進捗状況と取りまとめ	研究の進捗と課題を確認し、次の具体的な作業内容を明確化する。
研究室運営の基本的考え方	学生が卒研を通して知識を主体的に取得・活用し、成果をまとめるというプロセスを学ぶとともに、社会人として働くための基礎的な訓練も実施する。	自ら考える力を養わせることを第一に課題・ゼミを設定。コミュニケーション円滑化のために様々なツールを利用。	考え方としては、ゼミを通じてメタ知識の取得方法を身につけることを目標にします。知識そのもの、論理的考察能力、プレゼンテーション技術の3つが柱です。	プレゼンによる発表と質疑応答。研究内容の確認と今後の方向性を修正。 実験は研究室学生全員で行う。	テーマによらず全員が互いの研究内容を理解する。各自が興味に応じて過去の卒論や関連する論文を教本読む。
卒研従事時間表の提出	毎月チェックする。	毎月確認	毎月チェックして提出。	毎月点検させ研究室フォルダー内に提出、9月と2月に集約提出	毎月5日までに前月の時間表を提出する
ゼミ資料・卒研本文の保管	ゼミで提出したレジュメと卒論は研究室にて保管する。	Google Driveに保管し、Scrapbox上の個人ページと連携。	定例ゼミの発表資料はUSBで保管。卒業研究関係の資料はデータサーバーに提出・保管	個別に管理し、最終的な卒論概要・卒論本論・発表用資料・実験データについては研究室専用サーバーに保管	研究室のシェアフォルダに格納し、バックアップを取る
卒研テーマ準備	研究室で長期的に継続しているテーマ、新たなテーマを用意し、4月はじめに学生に提示する。	3月に打ち合わせをして関心を把握後、テーマ(大きな方針)を4月までに準備。	河川・流域環境に関する継続・新規の研究課題を学生に提示。	教員が4月までに卒業生の1.5倍の数ほどのテーマを準備	全員で関連する分野の教科書やレポートなどを輪講するなどについて整理し、具体的な作業の見直しをまとめる
卒研テーマ決め	用意した研究テーマを学生に提示し、4月に決定する。テーマの振り分けにおいては、学生の進路、学生の適性、学生の希望を考慮して決める。	学生の興味に基づいて教員が研究方針を提案。具体化までは個人差あり(学生によっては5月に決定)。	7月の定例ゼミで決定。基本的には教員のもつ研究課題の中から選択。学生が興味をもってやりたいテーマがあれば議論し、研究室全体の方向性と合致するところがあればそれを実施。	5月中に教員が用意した卒研テーマ候補から選択	教員が4月に卒研テーマ候補を用意する。輪講および論文発表を通して興味をしばらく、個別に指導教員と相談の上決定する。
研究計画立案(目的)	夏季休暇前の基礎勉強において、自身の卒研テーマの社会的意義についてまとめさせる。	論文レビューや繰り返しの議論を通じて自分の言葉で言えるようにする。	テーマの関連文献を夏休み前に教員から指示。9月の定例ゼミで決定	関連する過去の卒研・学外研究論文を読み、研究テーマの背景と目的をまとめる。	既往研究による課題を整理し、目的を明確に説明する
研究計画立案(方法)	夏季休暇前の基礎勉強において、研究室の過去の卒論・修論、収集した論文から、研究方法を決める。	関連性の高い論文や手法を教員が紹介したうえで、学生本人が選択。	テーマの関連文献および研究室の研究資源を夏休み前に教員から説明。9月の定例ゼミで決定	ゼミでの議論を通し6月中旬に実験計画を立案する。	研究データの取得方法、数値モデルの選択、解析方法などについて整理し、具体的な作業の見直しをまとめる
研究計画立案(期待される成果)	研究室のゼミにおけるディスカッションを通して、学生に研究の方向性を認識させる。	目的・方法を基に、学生自ら考えさせる。	テーマの関連文献および最新の研究成果を夏休み前に教員から説明。9月の定例ゼミで目的をある程度明確化。	得られる結果はどのようなものかを推測させる。何度が議論を実施	研究の新規性がどこにあるのか明確にするとともに、科学的問いを設定する。また、研究を実施する際の課題と解決方法について整理する。
夏休み	夏季休暇中はゼミは休止する。卒研に必要な作業があれば休暇中も実施する。	お盆期間(大学事務閉鎖期間とおおむね一致)	8月は定例ゼミは休止。	8月はゼミは休会。休暇は申告制。	8月中旬の大学の計画停電による閉会期間はゼミを休会。8月中旬からゼミ再開までは2回程度登校日を設けて進捗確認を行う。
ゼミ合宿	8月か9月にゼミ合宿を行う。勉強というより、秋からの本格的な卒研作業へ向けての研究室の連帯意識の醸成を目的とする。	なし	9月にゼミ合宿を実施。河川見学および懇親を深めるための観光・スポーツなどを行う。	8月末か9月に合宿を実施。現場見学と中間発表、懇親を深めるスポーツなどを開催	9月上旬に1泊2日で合宿を実施。現場見学を行う。
後期開始	夏季休暇終わりとともに、卒研の作業計画を発表させ、研究室全員で確認する。	9月中旬	夏休みの終わりにこれまでの成果発表を行う。それをもって後期の定例ゼミを再開する。	8月のお盆休み終了後、研究室ゼミを開始する	9月下旬の後期授業開始前より定例ゼミを再開。
研究実施中	毎週のゼミで進捗状況を確認するとともに、学生が研究で直面している問題をもっていきながら随時対応する。	学生の希望・進捗状況に応じて随時個別ゼミを実施。	月一回の発表を伴う定例ゼミを継続。必要に応じて、テーマ別に個別打ち合わせを行う。	教員との個々の打ち合わせで、必要な実験用備品、方向性の再修正等を決定する。実験用備品の購入は、教員を通して業者から購入する。	定例ゼミで進捗を確認するとともに、適宜教員と議論する。
中間発表1	中間発表は、ゼミでのPowerpoint発表に代える。	9月上旬に実施。	9月までに、研究背景・研究目的の設定を行う。	ゼミ合宿にて背景・目的を理解しているかプレゼンで確認。 実験計画の再修正を行う。	ゼミ合宿前を自前背景と目的、関連論文などのレビューを発表し議論する
中間発表2	中間発表は、ゼミでのPowerpoint発表に代える。ただし、11月中旬に卒研の題名と目次を学生に提出させる。	12月中旬に実施。	12月に研究室の中間研究発表会を実施。具体的な研究目的を3つ、それに対応したこれまでの成果および今後の課題を発表し、研究の中間取りまとめを行う。	1月初旬に実施する。最終発表に近い状態を目標とし、今後追加する内容を明瞭にする	12月中旬に結論となる図表を中心に研究の最終成果への見直しを発表する
卒研テーマ決定(1月中旬)	卒研のまとめの時期に入るため、自身の研究を、目的-方法-結果-考察-結論の様式でまとめるように指導する。	議論の上、更に1段階押し上げられるようなタイトルを決定。	中間発表以降、教員との個別議論で決定。	研究成果に応じたタイトルを議論し決定	得られた結果に対する考察を行い、追加的な検討を行う。成果に応じた適切なタイトルを議論し決定する。
内容梗概(1月下旬)	卒研概要の作成について、実践的に指導する。全体の構成、図表の作成方法、わかりやすい文章の執筆方法などを教示する。	学科締め切り前に研究室内締め切りを設けて確認・修正。	卒論本文の目次を中間発表以降に決定して、それに基づいて進めた研究成果を梗概としてまとめる。図・表を中心に内容の議論を行い、その後文章を完成させる。	1月初旬に概要を提出させ、教員が修正する。修正に当たっては、個々の学生と議論しながら進める。そのため1件の修正に5時間程度を有する。さらに概要提出前に最終チェックを行う。	研究全体の情報を整理し、背景、目的、手法、結論、考察について短くまとめる。教員が査読し数回やりとりして完成に向かう。
本文執筆(1月下旬~2月上旬)	卒論と概要と発表Powerpointでの作成方法の違いを示し、卒論本文を作成させる。全体の構成についてチェックする。	全体構成→部分: 分量より質を意図して、1ページずつ丁寧に書く。	卒論概要の内容を中心にして、論文の体裁を整える。目次に従って草ごとに草稿を執筆し、教員とのやりとりで推敲を重ねる。	卒論本論について、教員が内容をチェックする。本論執筆において事前に、HP上の情報をコピーしてないこと、引用文献・参考文献を明記すること、誤字脱字がないよう注意する。	重要な文献を全て引用しており、他者が追試できる明確な手法の記述ができているか、結果や考察が十分であるかなどに留意して論文としての体裁を整える。教員が査読しコメントする。
発表会資料準備(2月上旬)	卒論と概要と発表Powerpointでの作成方法の違いを示し、研究発表に基本的な心構えとテクニックを指導する。	発表練習を繰り返し実施。	卒業論文本文を提出したのち、準備する。本文に掲載する図・表はそのまま発表パワーポイントに使えるように作成。	教員の前で発表させ、発表用資料とプレゼン方法のチェックと修正を複数回行う。	発表の流れを考え、限られた時間に説明するポイントを選んで発表資料を準備する
発表会前(2月中旬)	卒研発表のための白本作成、Powerpointを作成させ、制限時間内で最適な発表ができるように練習を繰り返す。	発表練習を繰り返し実施。	練習を行い、研究目的と成果が短時間で観客に伝わるように発表資料の推敲を行う。時間ぴったりで全ての内容が伝えられるように練習を繰り返す。	教員の修正完了後、発表時間内におさまるよう繰り返し練習させる。	発表練習を数回行い、互いにコメントをして修正を行う。想定質問を考える。
発表会後(2月中旬)	各卒研で残された課題を整理する。	引き継ぎを徹底。成果に応じて学会へ投稿・Web公開用素材作成。	今後の課題の抽出。また、配属が決まった新4年生への引き継ぎも兼ねて最終ゼミを実施。卒論でまとめた研究成果は学会の学術講演会で発表もしくは論文投稿。	本年度の反省と来年度に向けての修正について反省会を行う。また配属が決まった学生と交流および研究内容の引き継ぎのため懇親会を実施。	発表会における質疑応答についてレビューを行う。研究の引き継ぎのため懇親会を実施。

過去の実績にもとづいているので、新しい年度での実施にあたっては、変更の可能性に留意すること

	岩倉研	楽研	中川研
研究室ゼミ定例の基本的考え方	前期：問題の発掘の訓練と統計学の実践、3週間に1度プレゼン後期：研究進捗の報告、2週間に1度。	前期：問題の発掘の訓練と統計学の実践、3週間に1度プレゼン後期：研究進捗の報告、2週間に1度。	週一回研究室にて（前期：学生による授業、プログラミング演習、後期：進捗状況報告）
研究室運営の基本的考え方	ゼミは全員参加、ゼミ以外に個別に意見交換あり	ゼミは全員参加、ゼミ以外に個別に意見交換あり	①アプリケーション自作、②実測データを扱う、③1人2～3テーマ以上の研究に参与（各自の卒研テーマは1つまで）を原則実施する
卒研従事時間表の提出	毎月点検させ、9月と2月に集約提出	毎月点検させ、9月と2月に集約提出	毎月チェック（教員へメール提出）
ゼミ資料・卒研本文の保管	個別に保管、終了時にはすべてのデータをCDに保存し、研究室にて保管	個別に保管、終了時にはすべてのデータをCDに保存し、研究室にて保管	ゼミ資料・卒研本文・実験データ・処理結果・プログラムコード等をサーバ上で管理もしくは教員へメール提出
卒研テーマ準備	4月に教員および修士が研究テーマを紹介、本人の興味をもとに研究課題を探る	4月に教員および修士が研究テーマを紹介、本人の興味をもとに研究課題を探る	7月までに20件程度を準備する
卒研テーマ決め	各人が行いたいテーマがあれば議論。6月中にほぼ決定	各人が行いたいテーマがあれば議論。6月中にほぼ決定	卒研テーマの学生提案を7月まで受け付ける。提案のなかった者には7月以降に教員から提案し学生が選択する
研究計画立案（目的）	関連する卒論・既存研究文献を各自で探して論文を読む。教員は主要な論文が抽出されていない場合に提示。	関連する卒論・既存研究文献を各自で探して論文を読む。教員は主要な論文が抽出されていない場合に提示。	教員、大学院生、共同実験者（企業、大学）を交えた会議および実験の準備において、自分で立案し、主として教員から学生へ指摘をする
研究計画立案（方法）	研究計画を立てさせた上で、教員と議論	研究計画を立てさせた上で、教員と議論	教員、大学院生、共同実験者（企業、大学）を交えた会議および実験の準備において、自分で立案し、主として教員から学生へ指摘をする
研究計画立案（期待される成果）	得られる結果はどのようなものかを推測させる。何度が議論を実施	得られる結果はどのようなものかを推測させる。何度が議論を実施	教員、大学院生、共同実験者（企業、大学）を交えた会議および実験の準備において、自分で立案し、主として教員から学生へ指摘をする
夏休み	8月上旬から9月上旬。概ね学年歴に準拠	8月上旬から9月上旬。概ね学年歴に準拠	大学の一斉休暇期間に合わせて研究室を閉室する
ゼミ合宿	9月上旬に合宿を実施。中間発表と現場見学、懇親を深めるスポーツなどを開催	9月上旬に合宿を実施。中間発表と現場見学、懇親を深めるスポーツなどを開催	夏休み期間にゼミ合宿を実施。合宿は研究中間発表を必須とする
後期開始	9月下旬	9月下旬	9月
研究実施中	年度初め、議論を重ねる。必要なものは院生か教員の許可を得て購入。	年度初め、議論を重ねる。必要なものは院生か教員の許可を得て購入。	自主的なPDCAサイクルにもとづき、資料収集・実験・プログラミングを実施する。研究に必要な物品は教員が用意する
中間発表1	ゼミ合宿にて目的を理解しているかを問う	ゼミ合宿にて目的を理解しているかを問う	ゼミ合宿で実施する。研究領域、研究目的、研究アプローチの内容確認を主とする
中間発表2	12月末に研究室中間発表を実施。研究室OBを招へいして質疑応答を実施	12月末に研究室中間発表を実施。研究室OBを招へいして質疑応答を実施	12月に実施する。最終発表ファイルのドラフト版提出を主とする
卒研テーマ決定（1月中旬）	12月の中間発表で学生から提示、その後数回議論	12月の中間発表で学生から提示、その後数回議論	中間発表2後に最終調整する
内容梗概（1月下旬）	ケースバイケースだが、院生のチェックを受けた後、教員がチェックを多い。客員教授のチェックをおこなうケースもある。数回のやり取りで完成に向かう。	ケースバイケースだが、院生のチェックを受けた後、教員がチェックを多い。客員教授のチェックをおこなうケースもある。数回のやり取りで完成に向かう。	中間発表2で作成したドラフト版を修正する（修正回数3～10回）
本文執筆（1月下旬～2月上旬）	本文執筆も出末次第、教員に提出。間違った記述がないかチェック。	本文執筆も出末次第、教員に提出。間違った記述がないかチェック。	中間発表2で作成したドラフト版を修正する（1～2回程度、教員から修正事項を指摘する）
発表会資料準備（2月上旬）	本論提出から発表までの間に、数回のチェックを院生・教員で実施。内容、言い回し、難易度などを調整。	本論提出から発表までの間に、数回のチェックを院生・教員で実施。内容、言い回し、難易度などを調整。	中間発表2で作成したドラフト版を修正する（修正回数3～10回）
発表会前（2月中旬）	スライドをある程度作成したら、練習は何度も繰り返す。	スライドをある程度作成したら、練習は何度も繰り返す。	研究室の学生全員を聴講者として、質疑応答を含めた発表練習を実施する
発表会后（2月中旬）	卒論発表後、打ち上げ実施。相応のレベルの学生は、土木学会の年次講演会等への論文準備	卒論発表後、打ち上げ実施。相応のレベルの学生は、土木学会の年次講演会等への論文準備	全員に研究ポスター作成を課す

過去の実績にもとづいているので、新しい年度での実施にあたっては、変更の可能性に留意すること

	岡田研	川口研	長原研	牧下研	谷田川研
研究室ゼミ定例の基本的考え方	週1回研究室で実施。前期は先行研究レビューや関連文献による基礎的事項の学習、統計解析の講義。後期は進捗状況報告。	週1回研究室でゼミを実施。前期はテーマ関連の文献調査と基礎学習、後期は進捗状況報告	週1回ゼミを実施。輪読を基本とし、前期までに経済学系テキストを1冊読破する。章ごとに担当者を決め、担当者はレジュメを作成。担当者はそれを報告したうえで、他のゼミ生と当該章に関する質疑応答を行う。	原則、毎週火曜日の10:00~15:00に大宮校舎4号館5階の教職相談室で実施する。	ゼミは基本的に週1回、研究室にて実施（前期：テーマに関する文献研究と方法論の検討。後期：研究テーマについての研究成果の発表とディスカッション）
研究室運営の基本的考え方	ゼミは全員参加。全員が毎週必ず発表。発表用レジュメを用意して事前にゼミの共有フォルダに提出。資料は全員が相互に閲覧可能な状態にする。他者の発表に対して積極的に質問や意見を述べたことを奨励。	ゼミは全員参加	ゼミでは皆が主役という考えのもと、活発な質疑応答を行う。	学生ゼミ長が基本的に運営するように指導している。	週1回のゼミへの出席は必須。必要に応じて個別指導を行う。
卒研従事時間表の提出	毎月末に教員へメール提出	月末に提出	毎月5日までに前月の卒研従事時間表を教員に提出する。	土木工学科の所定のエクセル表を提出させている。	月1回、メールにて指導教員に提出。
ゼミ資料・卒研本文の保管	毎週のゼミ発表資料、中間発表資料、卒研本文などは全てゼミの共有フォルダで保管。調査、実験データは研究室内の専用パソコンに保管。	研究室で保管	研究室に保管する。	ゼミ資料・卒研本文はデジタルで保管している。また、卒研本文は牧下研究室で保管している。	ゼミ資料はゼミ内共有フォルダにて保管。論文はデータと印刷物を研究室に保管。
卒研テーマ準備	本人の希望を重視。教員や他の卒研生とディスカッションしながら研究目的を明確化し、最終的に研究テーマの形になるように指導する。	学生の興味を考えながら教員と相談しながらテーマを準備する	学生個人が準備する。	前年度末から4月にかけて、学生の問題意識、先行論文により卒論テーマを準備する。	4月にテーマをいくつか提案する。本人の希望がある場合には、教員とディスカッションして方向性を絞り込んでいく。
卒研テーマ決め	5月にテーマの大枠を決めて、6月に研究計画も含めて検討しより具体的なテーマを決定する。	卒研の目標・価値を考えながら学生との話し合いで決定	学生の関心にもとづきテーマを決めてもらうが、テーマ決めまでに先行研究のサーベイを行う。そのうえで研究の独自性を高めるため、担当教員と綿密に打ち合わせを行う。	4月のゼミにおいて、卒研の価値付け、研究方法、実現性を鑑みて決定に向かう。	6月初旬頃までにテーマに関するディスカッションを繰り返し、確定する。
研究計画立案(目的)	関連する文献を学生が調査し発表。教員及び他の卒研生とのディスカッションをとおして何をどのように明らかにしたいのか、および、研究の独自性と意義について具体化する。	扱うテーマにおける文献調査に基づき目的の明確化を行う	先行研究の詳細な分析のもと、学生は、自分の卒業研究が当該分野でどれだけの貢献を残せるかを検討することに力をつける。	本学における土木工学の学びをもちに、社会に貢献することを研究の目的とする。	テーマに関連する先行研究を読み、研究の独自性を確認し、研究目的を明確にする。
研究計画立案(方法)	教員及び他の卒研生とのディスカッションにより、量的調査（アンケート）、実験、教育的介入（事前・事後調査）、質的調査等から目的を達成するにはどのような方法がふさわしいかを考えさせる。	目的に沿った研究方法を教員と共に考える	担当教員との打ち合わせを通じ、卒業研究で何をどこまで明らかにするかを固める。	卒業までに、完了できる研究となるように計画する。	リサーチクエストを明確にしたうえで、対応する研究方法を選択する。
研究計画立案(期待される成果)	教員及び他の卒研生とのディスカッションをとおして、期待される成果や研究の意義について考えさせる。	議論を通じ学生に考えさせる	期待される成果・研究の意義について、学生と担当教員で討論する。	土木工学、数学科教育の発展に寄与することが期待できる。	期待される成果についての議論を行う。
夏休み	大学の一斉休学期間中はゼミを休止。必要に応じて個別の指導は実施。	大学の夏季一斉休期中はゼミは実施しない	お盆まではゼミを実施。お盆後は9月から週一回の頻度でゼミを実施。	ゼミを定期的に計画する。学外での調査研究、学会発表に取り組む。	8月はゼミを休止とする。
ゼミ合宿	夏休み期間中に実施。中間発表会を行う。	実施しない	8月第1週が9月の第2週に実施。場所や費用は学生に決めさせる。	現在、実施していない。	9月頃に中間発表を兼ねて実施。隣接領域を扱う研究室と合同で実施することもある。
後期開始	大学の学年暦に合わせて後期の定例ゼミを開始。	9月初旬よりゼミを開始する	9月後期授業開始前からゼミ再開。	前期で実施してきた内容に、夏休みに収集した成果を積み立てた研究を行う。毎週1回ゼミメールで発表する。	9月
研究実施中	週1回の定例ゼミでの指導に加えて、データ解析や実践の準備などについて個別に指導を行う。	教員と連絡をとり研究の進捗状況を確認し、議論を行う	研究の進捗状況を担当教員に定期的に報告し、議論を行う。	指導教員と連絡を密に取り研究を推進する。	毎週のゼミで進捗状況を報告。必要に応じて個別指導を行う。研究に必要な備品は教員と相談のうえで購入する。
中間発表1	ゼミ合宿で実施。A4で1枚の抽象的かつPPTのプレゼン資料を作成。	前期授業終了後にPPTで取り組みをまとめ発表を行う	前期授業終了後の7月下旬に実施する。	7月末または8月初旬に実施し、これまでの研究成果を多くの方に聞いていただく。それをもとに卒論に役立てる。	9月のゼミ合宿にて実施。研究背景、研究課題、研究方法をまとめて発表。
中間発表2	12月に実施。最終発表用のプレゼン資料の原案を作成。質疑やディスカッションをもちに、最終発表に向けた改善を行う。	12月に行う	中間発表1で明らかになった問題点への解決策の発表と今後追加する内容の発表を行う。	11月中旬までに実施し、これまでの研究成果を多くの方に聞いていただく。それをもとに卒論に役立てる。	11月中旬ごろに実施。データ分析の結果を発表、今後の調整を行う。
卒研テーマ決定(1月中旬)	学生が自らの研究内容にあったタイトルを提案。研究室内で議論の上、最終調整する。	研究成果よりタイトルを教員と議論の上決定する	研究成果に応じたタイトルを議論し決定する。	11月までにおおよその卒研テーマを決定する予定である。1月中旬には最終決定する。	卒研の内容に沿った研究タイトルを提出し、ゼミで議論する。
内容梗概(1月下旬)	年内に教員に提出。学科の提出締切まで複数回の指導による修正と改善を行う。	教員が確認し、修正を行いながら完成	執筆したものがらどんどん提出させ、担当教員がチェック。数回のやり取りを経て、完成版を提出する。	梗概については、指導教員の音読のもと学生に指導する。	中間発表1、2でも概要の作成を義務付ける。最終版は中間発表2のものを発展させる。1月にゼミ内で概要の指導を複数回設け、内容の指導を受ける。
本文執筆(1月下旬~2月上旬)	1月中旬に研究室内の1回目の締切。教員との個別のやりとりによって複数回の修正と改善を行う。	数回の提出、推敲を繰り返し、仕上げる	提出順にチェックする。参考文献の提示方法や章立ては研究室で決められたものにしたがう。	1年間を通して、研究内容をわかりやすく執筆することを指導する。最終的には、1月下旬までに完了するように指導する。その際、LaTeXなどデジタルスキルの重要性を指導する。	本文が概ね完成した段階で教員が内容と目次、構成、図表の扱い方、参考文献の標記などをチェックし、指導を受ける。これを複数回繰り返し完成させる。
発表会資料準備(2月上旬)	1月中旬に研究室内の1回目の締切。ゼミで発表し、教員および他の卒研生からの意見をもとに修正と改善を行う。内容だけでなく、話し方やスライドの見せ方も指導する。	本論を提出後に準備、発表練習をしながら修正する	発表会の1週間前までに完成させる。個人で発表の練習を行う。	自分の研究をわかりやすく説明できる。ゼミ発表、中間発表1、中間発表2を通して、その方法について学ぶ。	スライドに入れる内容の決定、必要事項を整理する。プレゼンテーションツールであることを理解した見やすいスライド作成の技法の指導を受ける。
発表会前(2月中旬)	ゼミで発表練習を行い、声の大きさや抑揚、目線なども含めて指導する。ポイントや伝えたい内容は学生のみで互いに聴講者役になって複数回の練習を行う。想定される質疑とその応答についても準備、練習する。	発表の練習を行う	全員で集まり、プレゼンテーションの練習を行う。	ゼミにおいて、発表の練習を行うとともに、想定される質問内容を検討する。	スライドを用いて時間内に発表する練習を繰り返し行う。ゼミメンバー全員で質疑応答のシミュレーションを行い、本音に備える。
発表会後(2月中旬)	最終発表会および1年の研究についてのふりかえりを行う。最終発表会での質疑で出たコメントや質問について記録を残す。後輩に向けてのアドバイスを文庫にまとめて提出させる。	研究の振り返りを行う	一年間を振り返るために反省会を行う。その後、打ち上げを実施。	これまでの研究を総括する。	発表と質疑応答の振り返りの指導を受ける。卒研の総仕上げとしてポスターを作成する。

過去の実績にもとづいているので、新しい年度での実施にあたっては、変更の可能性に留意すること